

愚直ひとすじ

愚直ひとすじが輝くとき。
半世紀の歴史を次の世代へ。



三菱電機稲沢製作所 新試験塔



ヤマハマリン袋井工場

業界トップランナーとして

今や豊建は、建設現場の基礎と仕上を行う特異な専門工事会社として、東海地域で約10%のシェアを占める。両部門の売上構成比は半々で、経営バランスも安定している。企業の価値は売上や規模ではない。「豊建だから任せたい」という声に真摯に答えてきた結果が、同業他社と比べても遜色のない市場占有率となつてあらわれている。

そのようななか、名古屋大学の豊田講堂が全面改修・増築されるという報道があった。豊田講堂はトヨタ自動車工業の全額寄付により建てられたもので、一九六〇年五月九日に竣工。当時の名古屋大学総長がトヨタ自動車工業の石田退三社長に一億円の寄付を申し出たところ、「恥ずかしいものを」と倍の二億円を寄付したというエピソードが残っている。世界的建築家の横文彦氏の最初の作品で、モダンな建築の傑作といわれている。日本で初めてコンクリート打ちっ放し工法を採り入れたことでも知られる。

澤田会長の言葉を信じて
株式会社高田建設 代表取締役社長 高田 繁
パブル崩壊から一息つき、かといつて大きな期待を抱ける風潮ではない。時節、澤田延夫会長のあの数年で業界は必ず安定する、という言葉が忘れられませぬ。事実その通り、中部は非常に元気です。豊建安全衛生協力を代表し、これからも親切・安全施工を信条に歩んで参ることを誓い、日豊商事・豊建と共に現在に至ったことを感謝申し上げます。



この豊田講堂の建設に設立間もない日豊商事が関係している。当時、高さ四メートル、幅二五メートルのコンクリート壁面に相当する分量の生コンを確保するのは並大抵のことではなく、日豊商事はその厳しい環境の中で生コンの手配・調達に協力したのである。建築文化史の一端に立ち合えたことは豊建の誇りであり、自慢でもある。

名古屋大学豊田講堂との因縁

創業五〇周年を間近に控え、経営改革にひととりの筋道がついたところで小日向芳博は二〇〇四年に勇退し、代わつて山田昭吾が豊建社長に就任する。中部地域がビッグプロジェクトとして位置づけてきた中部国際空港と愛知万博(愛・地球博)が本格的に動き始めるときでもあり、二〇〇三年以降、豊建はこの二大工事にかかわっていく。中部国際空港では、旅客ターミナルを中心にホテルなど関連施設を、愛知万博では会場施設とささしまライブ24の工事を手がける。いずれも「元氣な名古屋」を象徴する事業であり、この二つに参画できた喜びは地元企業として実に大きい。請われた仕事はきちんとこなす、チャレンジ精神を仕事において発揮する、そうした姿勢が次の新しいステージを生み出す。名古屋駅前開発の目玉である超高層ビル群の工事にも深くかかわってきたほか、航空機工場やアルペン本社、三菱電機稲沢製作所新試験塔、岐阜シティタワー43などに取り組んでいる。横に広い工場建設から高層ビルの分野に着手するようになったのも、豊建にとっては必然なのである。

一九五八年から半世紀、次の五〇年も、豊建は愚直なまでに「安全第一・親切施工」の道をたゆまなく歩み続けることだろう。



岐阜シティタワー43



アルペン本社



矢場とん



サンシャイン栄



愛知大学 車道校舎



トヨタ自動車 大林新寮



POS-NPC豊橋工場



ZEEP/NAGOYA



ダイヤモンドシティキリオ